

すくわくプログラム テーマ「自然」

東京都の助成を受け、子どもたちが好奇心や興味をもってわくわくしながら遊べるよう応援する取り組みを進めています。

今年度は、前庭での自然をテーマに、子どもたちが自然とかかわるプロセスを丁寧にみとりながら、より遊びが面白くなったり、興味関心が広がったりするようなかかわりや環境を探っています。前庭での遊びと室内での遊びがつながり、自然に対してより親しみがもてるような保育環境を考えています。

小さな築山を作ってみると...



土を運び



踏み固めました



車で「工事中」



「やってみたいな」
1歳の人を見て、ハイハイで
登ってみる0歳児



「スケボー」
立ってすべってみよう

<問いを考える>

幼稚園のお山にある大きな築山に上り下りするのが好きな1、2歳児。0歳児もハイハイで楽しめる高低差、サイズ感の築山が前庭にあったら、面白いのではないかな。

<環境をデザインする>

学内で不要になった畑の土をもらい前庭に運んできて、大人が踏み固め築山を作る。

<実践と気づき>

初めは0～2歳児にとっては少し高さがあるかもしれないと思ったが、2歳児が「スケボー」と言いながら立って横滑りをしたり、おもちゃの車を走らせたりして遊んでいるうちに、踏み固められ、削られ、ちょうどよい高さへと変化していった。

1歳児も初めは保育者の手を持ちながら登っていたのが、自分で四つん這いで上り下りするようになり、立って上り下りを楽しむようになっていった。

0歳児も1・2歳児の様子を見る中で、自分のタイミングでハイハイで上る姿が見られた。それぞれの発達や興味に応じた遊び方につながっている。

曇りガラスを透明ガラスに変えてみると...



室内とのつながっている安心感を感じながら、外を感じて



ふちにあった砂をさわる



「なにしているのかな？」
棚づくりの様子に興味をもって

<問いを考える>

小さいひとにとってより安心できる戸外、自然にふれる環境とはどのようなものか。また、室内と前庭がつながりをもった空間になるような工夫ができないだろうか。

<環境をデザインする>

テラスと前庭の間の窓ガラスを、1枚透明なものに取り換える。

<実践と気づき>

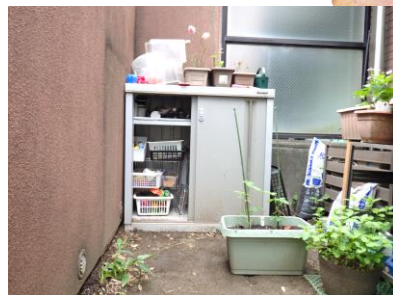
透明ガラスにしたことで、以前は部屋の一部のような存在だったテラスが、戸外と室内の間のように感じられる場所になった。小さいひとにとって完全に戸外ではないテラスは、戸外を感じながらも安心感をもって過ごせるようだった。

前庭の遊びの様子や、友だちが見えるようになったことで、前庭に出る前から行きたい気持ちがふくらむようだった。ガラスを隔てて、やりとりができるのが嬉しそうな様子だった。

「見える」を楽しむ場所ができたことで、「見えない」が楽しくなる姿があった。

棚を作るプロセスにふれる

作っている人が身近にいる環境で、傍でその姿にふれて。



BEFORE



AFTER

木片や竹、カンナくずや木くずなど、作る方とのかかわりの中で新しい素材と出会い、遊びも生まれていきました。



「でんしゃ」



「すべりだい」



おが粉の上を走らせる感触



「カレー」

<問いを考える>

前庭で遊ぶ子どもたちの姿から、子どもたちが自分で取り出すことができ、その時々興味関心に合わせて置くものを変えることができるような棚を作ろうと計画した。出来上がったものだけでなく、棚が作られていくプロセスにもふれられたら、より面白いのではないかな。また、普段親しんでいるものとは異なる木材の素材と出あったら、遊びが広がるのではないかな。

<環境をデザインする>

前庭の棚の製作をしてくださる方々の傍で過ごす機会を設ける。
前庭とつながる植込みの植栽をしてくださった方からいただいた竹を用意する。

<実践と気づき>

初めは「何をしているのかな？」という様子で遊びながら時折、言葉もなく作っている様子を見つめる姿があった。木片や竹のコップを手渡してもらったり、言葉を交わしたりする中で、少しずつ距離感が縮まっていったようだった。普段前庭にはない、木片や竹、木を切ったことで出てくるおが粉やかんなくずに興味をもち、その人なりにかかわる中で遊びが生まれたり、気づいたことを言葉にしたりする姿があった。

身近な葉や実 種や球根



「おおきくなーれ」
根元に水をあげて



中庭で採ったジャンボレモン
「さわってみる？」



「おはなのとなり、うえたいな」



お散歩先の広場で柿の種拾い

<これまでの子どもたちの姿>

「たねだ」
散歩先で見つけたジャンボレモンを輪切りにした。さわったり、匂いを嗅いだりしながら、その中に入っていた種を「たねだ」と言って取り出して見ていた。

これまで植えていた木を抜いて、黒い土だけになった花壇の横を散歩中に繰り返し通っていた。土をさわったり、見つけた赤い実をそこに置いて埋めたりする姿があった。

「このおいもだれがほったの？」
前庭でおいもほりをした数日後、おやつにさつまいもが出てきた時、A児が調理の人に聞く。おいもは土の中から掘り出してきたものだ、というイメージがあるのだな、と感じた。

<問いを考える>
種や球根ってなんだろう？

<環境をデザインする>
種や球根、植えられる場所を用意する。少人数でできるよう、時間を設ける。

<実践と気付き>
見たりさわったりする中で、種や球根そのものの形や質感のおもしろさを感じている様子が見られていた。これまではプランターに植えることが多かったが、好きなところに植える、としたことで、その人の思いが感じられたり、植えようとした場所の周りのことをよく見て、またそこで発見が生まれたりしていた。大きくなること、大きくなることで花や葉がでるといような形が変わることに、自分の経験から思いをはせているような人もいた。その後も散歩先や前庭での種探し、花や実への興味関心が続いていた。



BEFORE



AFTER